

遠隔授業における英語授業の取組

～振り返りを活用し、自律的な学習者を育成するには～

遠隔授業配信センター 教諭 濱田 志乃

1 はじめに

学校現場を離れ、今年度から同時双方向型の遠隔授業を行っている。モニター越しに生徒とのやりとりが可能とはいえ、生徒の様子を観察して声がけしたり、注意を促したりすることが難しい。音声の伝達にもタイムラグが生じる。気象条件によっては音声や映像が途切れることがある中で、生徒は50分間集中力を保ち続けなければならないため、遠隔授業においては対面授業の時よりもさらに自律的な学習者であることが求められている。

2 「自律」とは

尾関直子は、「自律の定義は、教育心理学でいう自己調整力の定義とほぼ一致している。自律した学習者を育てることが教育の目的となっており、学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びが提唱されている。」と述べている。自己調整とは、自分の学びの学習状況を振り返って自覚し、目標に向かって学びを工夫しながら向上させていくことである。『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」には自己調整と自律的な態度について以下の記述がある。

指導の際には、学習の目標、学ぶ内容や学び方を意識させた上で言語活動を行い、うまくいかないことについては学び方を見直させて、次の学習につなげるといった、自己調整を図りながら粘り強い取組を行おうとする側面を把握しながら生徒の学習改善につながる指導を行うことが大切である。自分にはどのような力が足りないか、どのような学習が更に必要かなどを自ら考えられる主体的、自律的な態度を育成したい。

以上のことを踏まえ、振り返りをさせて生徒に自己調整を促しながら、自律的に学習に向かうような取組を行った。

①学校名 ②本時の目標 ③目標の達成度 ④授業で1番大切だと思ったこと ⑤わからなかったこと ⑥授業の感想や疑問、もっと調べたいことなど (①、③については選択)

3 生徒の回答と気がついたこと

(1) 授業の振り返り

生徒は授業の最後に Forms で振り返りを行った。授業内で振り返りの時間を取れない場合は口頭で発表してもらい、生徒全員が学んだことを認識できるようにした。

客観的に授業を振り返ってみて、自分がどれだけできるようになったか、気づいたこと、思ったことなどについて書いたり発表したりすることが、学習への動機づけへとつながっていくと思われる。年度当初には「なし」「楽しかった」という回答をしていた生徒が、「友だちに教えてあげられるようになりたい。[I]の発音は上の歯の裏側や歯茎に舌をくっつけることが大切。自分の言いたいことをわかってもらえるようにもっと発音が上手になりたい。」のような前向きな記述をするようになった。英語で質問されても日本語で答えていた生徒が、端末で調べて英語で答える場面が増えてきたり、修学旅行の思い出について自主的にスライドを作成し対面授業で発表したりといった積極的な態度が見られるようになった。

振り返りをさせることで個別にアドバイスすることや補足説明することも容易になる。例えば、受動態の分詞構文について学んだ際に「beingがいるかいないかについてもっと知りたい。」という回答を踏まえて、次の授業で足りなかったところを説明し、その後に Forms で分詞構文の確認問題を送信した。Forms のラジオボタン機能を使用して択一式のテストを作成し、「授業→振り返り→フィードバック→確認」というサイクルが生まれ、授業改善へとつながることができた。また、「関係代名詞の先行詞にaがつく場合もあることを知り、a と the の違いについて調べようと思

った。」と書いた生徒に、調べたことを授業で共有してもらうことができた。このように Forms を使用することで、即座に生徒の反応や学びの過程を授業後すぐに確認でき、次の授業に活かせることが端末利用の利点の一つである。

(2) 年間の振り返り

年間の振り返りは、用紙に記入する形で行った。「完全な英語で喋ろうと意識しすぎて自信のない話し方になってしまう

- ・授業を振り返り、最も心に残ったことについて書いてください。
- ・できたことや、成果だと思ったことについて書いてください。
- ・あなたが直面した課題は何でしたか。
- ・問題や課題を改善したり解決したりするために取り組んだことは何ですか。

ことがあったので、習った単語やフレーズを吸収できるよう何度も声に出して練習したり書いたりした。」「話したり書いたりしたことを他者に理解してもらうように、わかりやすく根拠、理由、具体例を添えて英文の構成を考えながら最も伝えたいことを意識するようになった。他の人が作ったスライドや英作文を見せてもらって、よりよいものにすることができた。語法や文法の正確さが足りないと思ったので、丁寧に英文を読むことを心がけるようになった。」「授業中に友だちや先生と英語で話をするのが楽しかった。言いたい単語がすぐに出てこなかったり、うまくまとめて話せなかったりすることがあったが、たとえ上手に話せなくても主語と動詞を意識して何とか伝わるようにしてみることや、日本語に頼らず単語をその場で調べて言うようにしたらいいことがわかった。」「インタビューテストでは緊張で頭が真っ白になる時があったので、何回も声に出して練習したり、書いて覚えたりした。前よりも英語が好きになったし、習ったことを実際に海外で使ってみたいと思った。1年前よりも英語の発音がよくなったし、テストの点数も上がった。」「英語を聞くことが苦手だった。英語をできるだけ聞き取ろうと集中し、スピーキングもがんばった。そうすると少しずつわかるようになって、最後のテストのリスニングは満点を取ることができた。自分の言いたいことを言葉にして伝えられるように、文法もたくさん勉強してテストでどれだけわかったかを確認した。」等という回答から、学びの工夫をしながら学習に取り組んでいることがわかった。

4 おわりに

植坂友理は、「自律した学習者とは、つまずいたときに自分で課題を発見し克服できる人です。社会に出れば、丁寧に教えてくれる先生も、詳しく説明がしてある教科書もありません。また、学校で身に付けた知識や技能は、時代の移り変わりとともにどんどん変わっていきます。学校で習わなかった未知の知識・技能に出合った時にも、自分で学び、獲得できる。そうした学び続ける姿勢を育てることが、生きる力となると思います。」と述べている。

生徒は職員室を訪ねるように Google Classroom で担当教員に相談や質問を送ってくる。自宅で添削された課題を受け取り、すぐに復習できる。ペアでワークシートを交換する代わりに Jamboard を使って全体で共有し、アドバイスや質問をしあう活動へとさらに発展させることができる。社会環境の変化が激しくグローバル化が急激に進む現代において、正答がない課題に向き合い、絶えず知識や技能をアップデートすることを求められる。自律した遠隔授業受講生徒は、社会人となったときにたくましく未来を切り拓いていく人材となり得るのではないだろうか。

引用文献

文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料. 高等学校外国語. 2021, p. 90

尾関 直子. 「主体的・対話的で深い学び」を実現するメタ認知ストラテジー. 英語教育 6月号. 大修館書店, 2019, p. 16-17

植坂 友理. 「自律的な学習者」を育てる学び方指導. VIEW21 中学版 2012 Vol. 3.

(株) ベネッセコーポレーション Benesse 教育研究開発センター, p. 9